

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	音楽によるふるさとづくり (「ふるさとの四季」を故郷のばら公園でみんなで歌おう)
事業主体 (連絡先)	信州なかのローズフェスタ合唱団 団長 山岸 重雄
事業区分	③ 教育、文化の振興に関する事業 ⑧ その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	841,680円 (うち支援金: 673,000円)

事業内容

○2019年信州なかのバラまつり会場でのコンサート
期日:2019年6月8日(土)バラまつり開催期間中
場所:中野市一本木公園内屋外ステージ
内容:オーケストレーションで100人大合唱として
「ふるさとの四季」の合唱を行った。

参加者:91人。観客約100人。

事前練習:4月21日、5月12日、26日の3回実施。

○観客には、中野市出身の音楽家中山晋平が作曲した
「シャボン玉」にちなみシャボン玉セットを配布し、
実際にシャボン玉を飛ばしながら一緒に歌った。



【当日の様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 中野市のほか県内の市町村から、歌手が91人集まり、専門の音楽家とプロのエレクトーン奏者の指導等で、中野市にゆかりのある曲を観客とともに合唱を行い好評を得た。また、ローズフェスタ合唱団により、オペラのハイライトの場面や合唱曲を合わせて演奏し、中野市の文化の街づくりの一端をPRできた。
- ② 公演と3回的事前練習により、他の合唱団等と情報交換を行う機会ができ、歌や音楽の話を通して交流を深めることができた。
- ③ 音楽家の専門の先生の指導を受けられるという貴重な経験は、より深い学びの場となり、地域の各合唱団の今後の活動に役立てることができた。
- ④ 観光客の多いばら公園で、中野市出身の高野辰之や中山晋平の作品を演奏したことは、観光客にも中野市の音楽的な文化・歴史の紹介ができた良い機会となった。

【目標・ねらい】

- ① 地域住民での感動のステージ
- ② 音楽を通じての文化の交流
- ③ 音楽による地域活性化
- ④ 観光客への地域PR

※自己評価【A】

【理由】

参加者の多くから、再度ばら公園でみんなで歌いたいと喜びと感動の声が上がった。また多くの観客からも、ばら公園での「ふるさとの四季」の歌は感動したと言われた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

計画していた秋のばらまつりでの演奏は、台風のため中止となってしまったが、今後も観光客の集まる信州中野ばらまつりをメインに、仲間を集って「ふるさとの四季」を演奏し、文化の振興や学びを深める活動を続けていく。また、観光客等へのPRも続けていきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある